

# タイ人留学生2人 町内就職



(前列右から) アッチャラさん、メーサーさん、工藤町長、バワナさん

## 南部町・八学大 国際介護人材育成

### 1人は介護福祉士合格 ネパールから新たに入学生も

南部町と八戸学院大学・同短期大学の連携協定に基づき、国際介護人材育成「青森なんぶモデル」として、同町に滞在していたタイ人留学生2人が2024年度末で同短大を卒業、うち1人が国家資格「介護福祉士」に合格した。2人は町内の高齢者施設で正社員として働く。また、今春新たにネパールから1人、同短大に入学した。3人は4日、町役場を訪れ、工藤祐直町長に今後の目標などを語った。

(藤田幸雄)

同短大を卒業したのはサマーム・アッチャラさん(32)とブンカセーム・メーサーさん(35)で、アッチャラさんが介護福祉士に合格、メーサーさんが来年の合格を目指す、ともにアルバイトをしていた町内の高齢者施設「八幡のゆ」などに今春就職した。新たに同短大に入学したのはラナ・チャトリ・バワナさん(25)

で、同施設でアルバイトしながら同短大に通う。同短大の介護福祉学科の柏葉英美教授、同大学・同短大の教学部学生課の金入教人課長、社会福祉法人恵生会「八幡のゆ」の工藤愛施設長が同席。アッチャラさんは「入学した時は日本語が通じなくて大変だったけど、みんなが優しくしてくれた。優しい介護福祉士になりたい」、メーサーさんは「近所の人から果物などをもらった。日本語は難しいけど、勉強を頑張りたい」と述べた。

一方、バワナさんは仙台市内の学校で2年間、日本語を学んできた。「地元のいろいろな料理を食べてみたい。日本のお祭りや文化も学び、日本語が上手になりたい」と意気込みを語った。

工藤町長は「バイトしながら2年間学校に通って、卒業しても同じところで働けるといことは本当に素晴らしいこと。町の祭りや花火大会にもぜひ参加して頑張ってください」と激励した。